

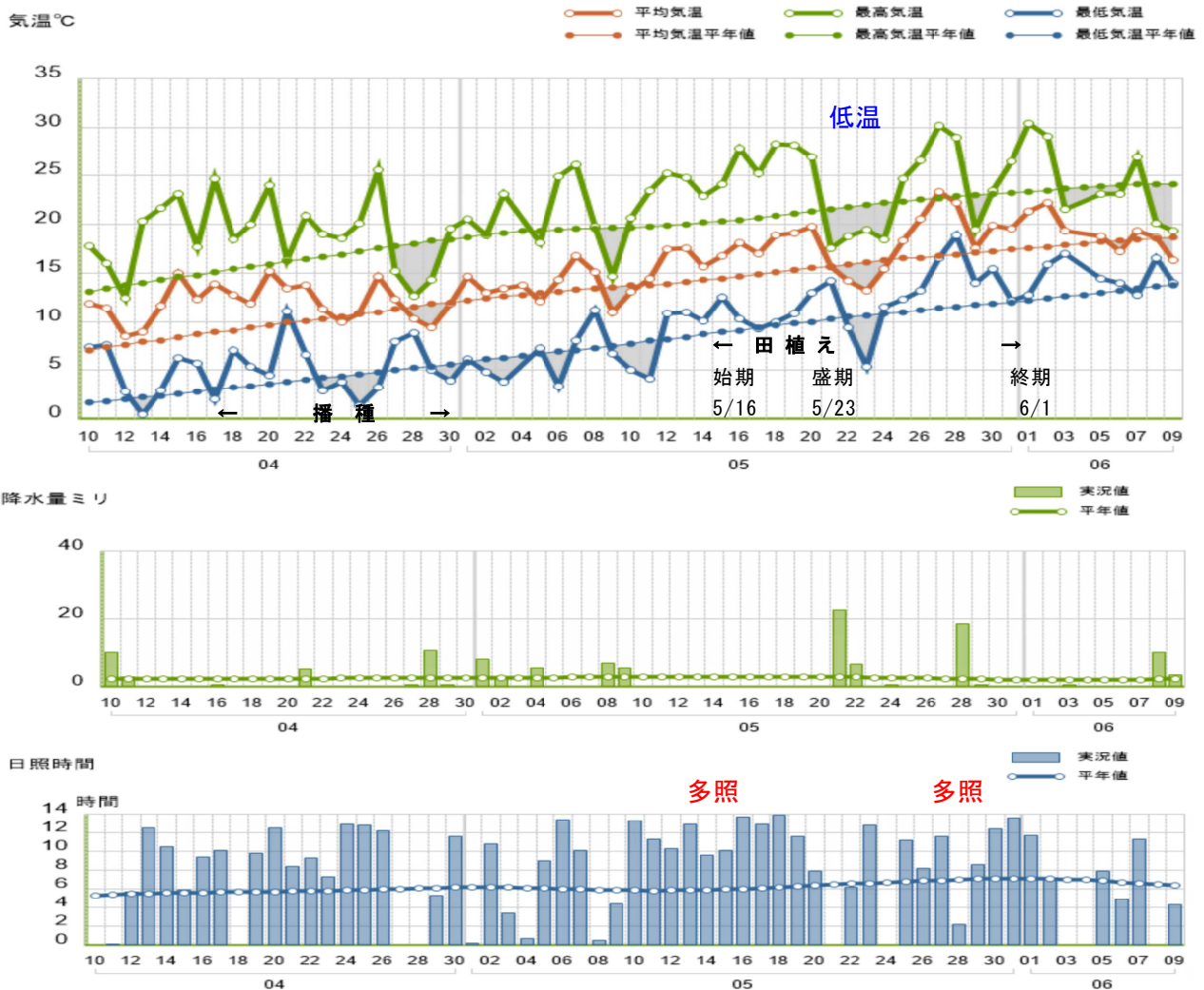
雄勝地域の

# 稲作だより

令和8年6月11日発行  
 雄勝地域振興局農林部  
 農業振興普及課  
 TEL 0183-73-5180  
 FAX 0183-72-6897

目標茎数を確保したら、速やかに中干しの実施を！  
 分けつの確保状況に応じて適切な水管理をしましょう

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：令和8年4月10日～6月9日）



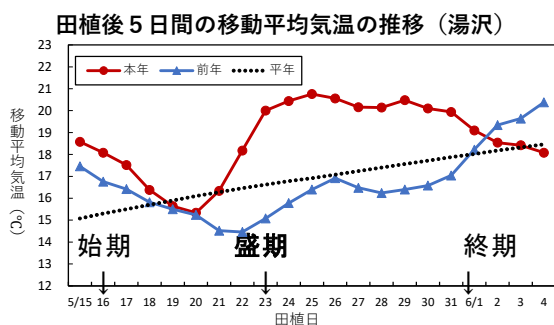
	平均気温（平年差）	積算降水量（平年比）	積算日照時間（平年比）
5月上旬	13.7℃（+0.5℃）	28.5 mm（110%）	65.8 h（103%）
5月中旬	17.5℃（+3.4℃）	0.0 mm（0%）	114.2 h（210%）
5月下旬	18.2℃（+2.4℃）	48.5 mm（163%）	86.8 h（125%）
6月上旬	19.2℃（+1.3℃）	14.0 mm（80%）	47.1 h（71%）

## 【雄勝管内の作業・生育概況】

○雄勝管内の田植え作業の始期（5%）は5月16日（平年より3日早い）、盛期（50%）は5月23日（平年より2日早い）、終期（95%）は6月1日（平年並）となり、平年よりも田植え作業期間が長くなりました。

○6月10日の定点調査（あきたこまち8カ所）では、草丈24.6cm（平年比99%）、茎数145本/m<sup>2</sup>（同比124%）、葉数6.1葉（同差+0.2葉）となっています。

5月は気温が高く推移し、日照時間も多かったため、活着が良好でした。田植え時期が早かったほ場では、葉数が進展し、分けつの発生が旺盛になりましたが、田植え時期の早晩によりほ場間差が大きくなっています。



	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(葉)
本年	24.6	145	6.1
平年	24.9	117	5.9
平年比	99%	124%	+0.2
前年	23.2	116	5.4
前年比	106%	125%	+0.7

※各数値はあきたこまち8カ所の平均値  
※平年値は過去10年の平均値

## 【当面の主要な技術対策】

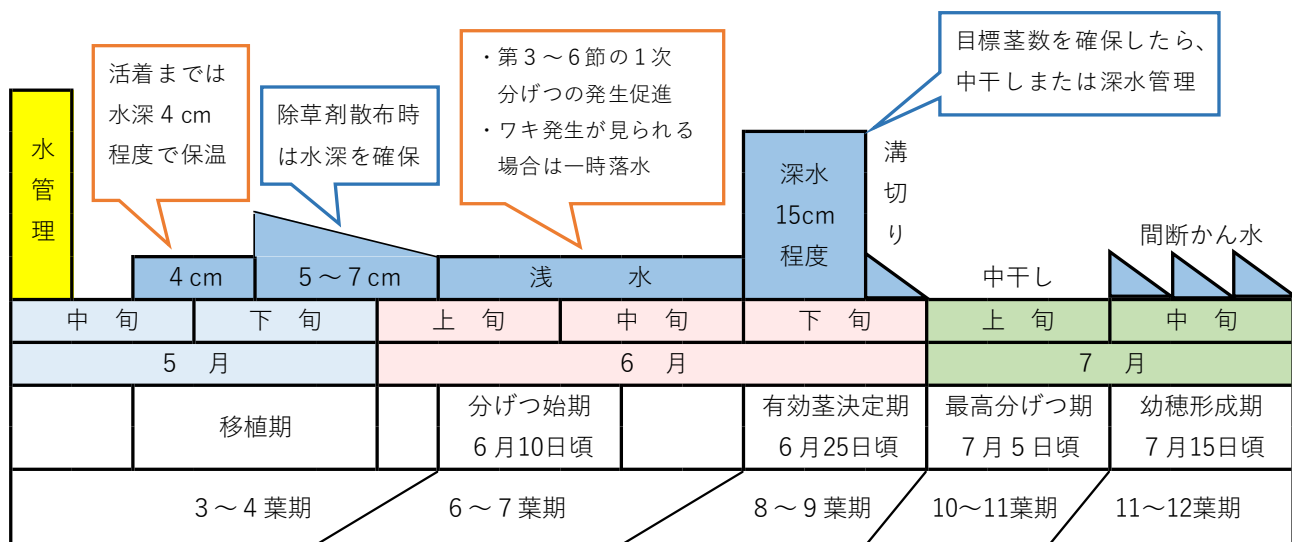
### 1 今後の水管理

高品質・良食味米の安定生産には、強勢茎（主茎及び第3～6節の1次分けつ）主体に穂数を確保することが重要です。

- （1）分けつの発生は、日平均水温23～25℃で、日気温較差を大きくすることで促進されるため、活着後は浅水管理を徹底して、水温と地温を高めて日気温較差を大きくします。水田への入水は、用水温と水田水温の差が小さい早朝か夜間の時間帯に実施します。
- （2）高温が続き、藻類や表層剥離、土壌の異常還元（ワキ）が発生した場合は、初期生育が抑制されます。対策として、気温の低い早朝や雨の日に一時落水し、水の入れ替えを実施しましょう。除草剤で藻類や表層剥離を防除する場合は、発生初期（発生程度がほ場の30%未満）までに、モゲトン粒剤を2～3kg/10a散布、またはモゲトンジャンボを20個（1kg）/10a散布しましょう。
- （3）目標茎数（㎡当たり茎数420本、60株/坪植えで1株23本程度、70株/坪植えで1株21本程度）を確保するか、主茎の葉数が8.1～9.0葉期で第6葉節から分けつが発生した時点で、中干しを開始します。
- （4）中干しは、7～10日間程度とし、ほ場に軽く亀裂が入り足跡のつく程度とします。中干し始めに溝切りをすることで、水の回りが早くなるため、水不足が心配されるようなところでは、効率的な水管理を行うことができます。また、排水も素早く行うことができ、中干し効果が高まるほか、登熟後半まで水管理が可能となるため、根の活力維持や、登熟歩合の向上に繋がります。

### ＜深水処理による分けつ抑制＞

水深が確保できるほ場では、主茎葉数が8.5～9.5葉期に水深を15cm程度に保つことで、無効分けつの発生抑制が可能です。なお、深水処理後は慣行栽培と同様に中干しを行います。



## 2 水田内の雑草対策(中・後期除草剤)

ノビエやカヤツリグサ科雑草(ホタルイ類)が水田内で繁茂すると、斑点米カメムシ類による被害を助長します。ほ場内をよく観察し、雑草が発生しているほ場では、中・後期除草剤を早めに使用するなど、対策には万全を期してください。

残草の種類	除草剤名	使用時期(移植水稻)
ノビエのみ	クリンチャー 1キロ粒剤	使用量1kg/10a… 移植後7日～ノビエ4葉期まで 使用量1.5kg/10a… 移植後25日～ノビエ5葉期まで
	ヒエクリーン 1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期まで
ホタルイ、コナギ、オモダカ等(ノビエ除く)	バイスコープ 1キロ粒剤/ ルナクロス 1キロ粒剤	移植後14日～35日(ホタルイ10cmまで) ※ノビエに有効な前処理剤との体系で使用する
ノビエ及びホタルイ、コナギ、オモダカ等	ウィードコア 1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期まで
	ツイゲキ豆つぶ250	移植後14日～ノビエ4葉期まで
	フォローアップ 1キロ粒剤/ ワイドアタックD 1キロ粒剤	移植後25日～ノビエ3葉期まで
	クリンチャーバスME液剤	移植後25日～ノビエ5葉期まで 使用量1000ml/10a 散布液量70～100L/10a

(令和8年度版 秋田県農作物病害虫・雑草防除基準より抜粋)

### 【農薬危害防止運動実施中！】

- ・秋田県では、令和8年6月1日から8月31日までを「農薬危害防止運動」の実施期間として、農薬の安全かつ適正な使用及び管理の徹底を呼びかけています。
- ・農薬によって使用量や希釈倍数、使用時期や使用方法等が異なりますので、使用前には必ずラベルをよく読み、使用基準を守りましょう。
- ・散布作業にあたっては、周辺作物の作付状況を確認し、ドリフトには十分注意しましょう。

令和8年度秋田県農薬危害防止運動テーマ

「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

次号の発行は6月下旬の予定です。